

事業案内



一人でも多くの人々が幸せになる福祉を目指して

公益財団法人 鉄道弘済会
会長 森本 雄司



本法人は、公益事業の運営を本旨とする財団法人として、1932年2月に設立されました。設立の趣旨は、国有鉄道の業務に従事し、不慮の事故により殉職された職員の遺族や公傷により退職された職員などの救済と援助を目的としたものでした。第二次大戦後、時代の要請により、一般の方がたをも対象とする一般福祉事業へと公益事業の範囲を拡大し、1987年には国鉄の分割・民営化に伴うキヨスク事業の分離により、自ら保有する資産の運用によって福祉事業を維持、運営する自立型の財団法人として、その途を進むこととなりました。その後、2013年に公益財団法人へと移行し、今日にいたっております。

本法人の行っている公益事業には、身体障害者福祉、児童福祉、知的障害児・者福祉、高齢者福祉などがあります。切断障害者を対象に、医学的管理をもとに義肢製作から機能回復訓練まで一貫して行う民間におけるわが国唯一の総合リハビリテーション施設、知的障害・自閉症児者施設、認可保育所・認定こども園や児童養護施設など、各種福祉施設の運営を全国各地で展開しております。また、福祉に関する実践と研究をつなぐ専門誌の発行及び各種セミナーの開催や視覚障害者用録音図書の製作奉仕者に対する顕彰事業等も行っております。

民間の公益事業団体として先駆的な役割を果たすとともに、ニーズの変化にも対応し、事業内容の充実に努めてまいりました。そして、これらの公益事業に要する費用の不足分は、不動産を有効活用した賃貸事業などの収益事業の益金等をもって充当しております。

法人設立から90年以上が経つ現在も、先人たちの志は変わらず受け継ぎつつ、これから必要とされる福祉にも柔軟かつ積極的に取り組んでいくことで、一人でも多くの利用者やそのご家族・地域の方々が、自分らしく安心して生きることができ共生社会の実現を目指しています。世の中の動き、諸情勢は、広い分野にわたりめまぐるしく変貌しておりますが、本法人はこれからも、社会の様々な課題に真摯に向き合い、利用者一人ひとりに寄り添う質の高い福祉サービスを提供することにより、広く社会に貢献していけるよう全力を傾注してまいります。

■ 基本理念・行動指針



基 本 理 念



鉄道弘済会は、1932年（昭和7年）鉄道に従事し、殉職した職員の遺族や身体に障害を負った職員を救済・援護する目的で福祉団体として設立して以来、長年にわたり社会の福祉ニーズに幅広く応える事業を展開してきました。

私たちは、2013年（平成25年）10月公益財団法人として新たにスタートしましたが、設立当時の志を変えることなく、これまで培ってきた経験、知識、技能を高めつつ、更に専門的、先駆的な取り組みに努め、持続的に福祉サービスを提供するとともに、これを収益事業で支え、だれもが暮らしやすい社会の実現に貢献して参ります。



行 動 指 針



（信頼される福祉サービスの提供）

- 1 私たちは、利用者一人ひとりの目線に立ち、まごころ込めた福祉サービスを提供するため、常に専門知識の習得に努め、利用者や地域の方々から信頼される「福祉の鉄道弘済会」を目指します。

（公益目的事業を持続するための自立型運営）

- 2 私たちは、福祉サービスを提供するために、自ら保有する資産の効果的な活用とコストマネジメントを実践しつつ、安定した公益目的事業を遂行し、自立型運営を持続します。

（社会的責任の遂行）

- 3 私たちは、法令遵守の精神に則り、誠実かつ公正に行動し、地球環境の保護に努め、地域社会との共生に取り組みます。

■ プロフィール

◎ 設立

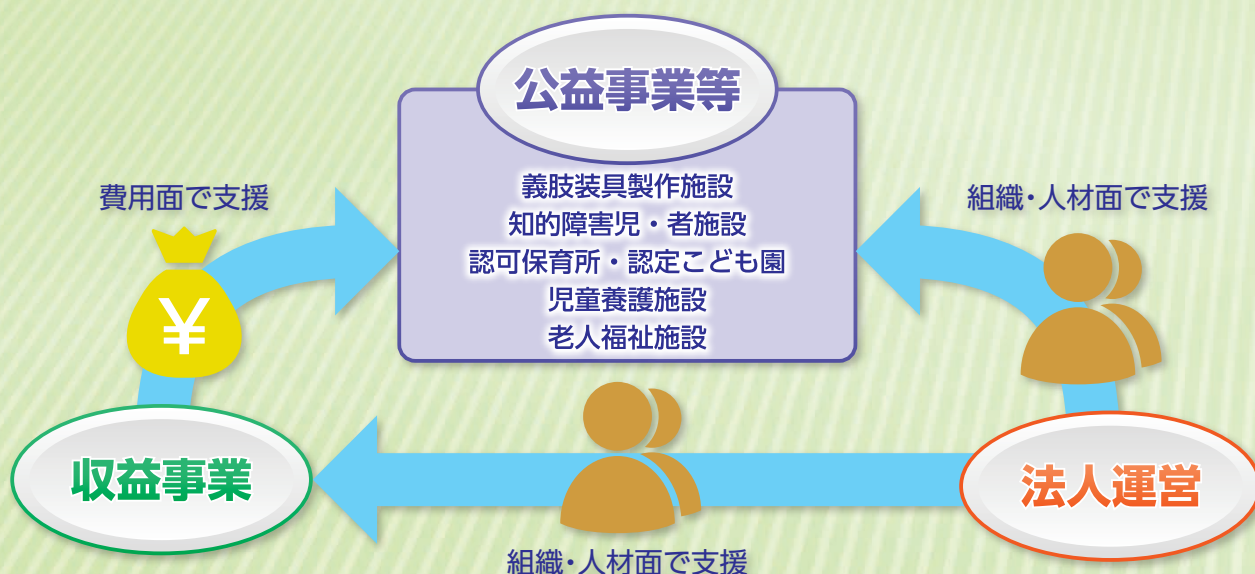
鉄道弘済会は、1932年2月25日、国有鉄道の職域福祉団体として、公傷退職者、永年勤続した退職者並びにその遺族及び殉職者の遺族を救済・援護する目的を持って、片岡譚郎、堀木鎌三、高橋定一各氏らの尽力により、当時の鉄道省が5,000円を出捐し、設立者名義を床次竹二郎（当時の鉄道大臣）として設立されました。

◎ 目的

本法人は、障害者、児童又は青少年、高齢者及びそれらの家族など支援を要する者の諸問題の解決と改善に向けて必要と認める支援を行うとともに、（中略）わが国の福祉の増進並びにだれもが暮らしやすい社会の実現に寄与することを目的とする。（定款第3条より一部抜粋）

◎ 鉄道弘済会の事業体系

本法人が提供するさまざまな福祉サービスは、全国各地に保有している土地や建物を利用した不動産賃貸・開発の収益事業による益金と、法人本部・支部による組織・人材面でのサポートに支えられています。収益事業を保有して社会福祉事業を行う「自立型財団法人」として、より良い福祉サービスの提供に取り組んでいます。



～全国に広がる福祉のネットワーク～

○法人概況

設 立 1932年2月25日 財団法人鉄道弘済会設立

※ 2013年10月1日 公益財団法人へ移行

基本財産 235億円

従業員数 1,203名 (2025年6月1日現在)



○本部・地方機関の所在地

本 部	東京都文京区小石川 1-1-1 文京ガーデンゲートタワー	電話	03-6261-3298
北海道支部	北海道札幌市中央区南一条西 1-2 松崎ビル	電話	011-271-3109
東北支部	宮城県仙台市若林区成田町 75-1	電話	022-291-5175
関東支部	東京都北区赤羽 2-7-2 第5荒川ビル	電話	03-5939-9781
東海支部	愛知県名古屋市中村区名駅 3-22-8 【隣 JR 東海リテイリング・プラス内】	電話	03-6261-3298
西日本支部	大阪府大阪市北区梅田 1-1-3-600 大阪駅前第3ビル	電話	06-6343-2771
四国支部	香川県高松市西内町 4-6 神原ビル	電話	087-851-0436
九州支部	福岡県北九州市小倉北区浅野 1-1-1 アミュプラザ	電話	093-541-3529

公益事業等 ～一人でも多くの人が幸せになる福祉を目指して～

■ 義肢装具サポートセンター（障害者に係る福祉支援事業）



施設外観



製作室



装着・歩行訓練



「THE FIRST STEP」

東京都荒川区に設けた義肢装具サポートセンターは、義肢・装具を必要としている切断者・麻痺患者等に対して早期の社会復帰を支援するため、医師をはじめとする医療関係の専門職が連携を取りながら、義肢・装具の処方から製作、修理、義肢装着訓練、機能回復訓練、更生相談に至るまで、入所設備を整えた施設で一貫してサービスを提供する、民間では唯一の総合リハビリテーション施設として運営しています。

当センターでは、利用者の「生活の質の向上」を図るため、義肢・装具の研究開発にも積極的に取り組み、利用者の社会参加に貢献しています。また、当センターの義肢装具士を各種障害者スポーツ大会にメカニックとして派遣し、アスリートを支援するとともに、障害者スポーツの裾野を広げることを目的に、初心者向け走行体験会「THE FIRST STEP」の開催やスポーツ用補装具の貸出等を行っています。

このほか、幼稚園・保育所の年長児から小・中学生を中心に「出張授業」を実施しています。専門知識を有する職員を講師として派遣し、体験を通して義肢・装具の仕組みを学ぶだけでなく、障害のある方と接することで、障害者への理解を深め、社会福祉を考えるきっかけづくりに貢献しています。

主催行事

「施設公開」

義肢・装具を身近に感じてもらい、障害者への理解を深めてもらうために「施設公開」を毎年開催しています。製作室、リハビリ室、展示室などの見学のほか、義肢・装具のリハビリ、パラスポーツなどに関する相談会も実施しています。



「施設公開」

所在地 東京都荒川区南千住4-3-3 電話 03-5615-3313

ホームページアドレス <https://www.kousaikai.or.jp/support/>



総合福祉センター「弘済学園」 (障害者に係る福祉支援事業)



施設外観



就労支援「ハーブ作業」



体育「トランポリン」



生活支援「歯磨き」



日中活動支援「ビーズ通し」

神奈川県秦野市に設けた総合福祉センター「弘済学園」は、知的障害・自閉症児者を対象に、障害児者が安心できる生活環境を整え、情緒の安定を引き出し、生きる力を養うことで、それぞれの自立に向けた療育支援を行うことを大きな特色としています。

当園では、福祉型障害児入所施設、障害者の地域生活を支援するグループホーム、障害者の日中活動を支援する生活介護事業及び就労継続支援B型事業、障害児の早期療育のための児童発達支援センター、学齢期の障害児に対する療育のための放課後等デイサービス、障害児とそのご家庭からの相談等に応じる障害児相談支援事業と保育所等訪問支援事業を運営しています。

なお、生活介護事業及び就労継続支援B型事業では、障害者の社会参加と工賃向上を目的に「丹沢 HERBS」を立ち上げ、ハーブの栽培から収穫、ハーブティーの生産をすべて手作業で行っています。ハーブティーの生産を通じて自信や意欲を高め、達成感を得て生きる力を養う機会を提供しています。

主催行事

「わたしたちが創る展」

知的障害・自閉症児者への理解を深めていただくことを目的に、弘済学園の利用者が取り組む作業学習から生まれた作品を大勢の方に触れていただけるよう展示しています。

「こうさい療育・支援セミナー」

弘済学園での療育・支援の実践を基にした研究報告を行い、知的障害・自閉症児者への療育・支援のあり方について、内外関係職員等の研鑽と専門性向上を図ることを目的に開催しています。



「わたしたちが創る展」(東京駅構内)



■ 児童養護施設 札幌南藻園 (児童又は青少年の健全な育成に係る福祉支援事業)



本園舎



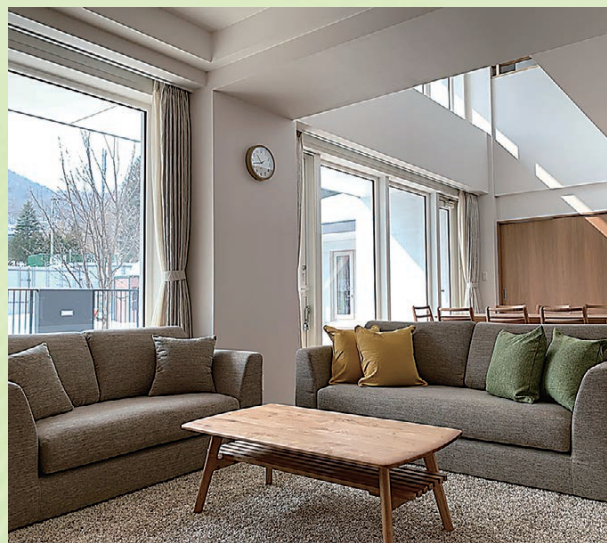
分園ひまわり



地域小規模たんぽぽ



地域小規模あじさい・すずらん



本園 (リビング)



なんそうえん子ども家庭支援センター 来所相談



なんそうえん子ども家庭支援センター 電話相談

北海道札幌市に設けた札幌南藻園は、さまざまな事情により家庭での生活が困難な児童を受け入れ養育するとともに、家庭復帰を支援する児童養護施設です。当園では、「優しく、正しく、朗らかに」を養護理念として、家庭的な雰囲気の中で「素直で、明るく、人の痛みのわかる人」に育ってほしいという願いを持ちながら、子どもたちの成長と自立を見守っています。

本園をそれぞれに児童6人が入居する4棟の小規模グループケアとし、児童6人の分園型小規模グループケア1棟と、同じく児童6人が入居する地域小規模児童養護施設3棟、合計で48人の入居体制を整備し、家庭に近い生活環境において、個別的な支援をする中で、児童一人ひとりの自立に向けた支援を行っています。

また、児童養護施設に附置した「なんそうえん子ども家庭支援センター」は、子どもや子育てをしている家庭、地域住民などからの相談に応じ、専門の資格を持ったスタッフが必要な助言や支援を行っています。

さらに同センターを窓口として、保護者の病気・出産・冠婚葬祭などの理由により、児童を短期間お預かりする「札幌市子育て短期支援事業 (子どもショートステイ)」も行っています。

所在地 北海道札幌市中央区界川1-6-14 電話 011-561-0668

ホームページアドレス <https://www.kousaikai.or.jp/nansouen/>



■ 保育所・認定こども園（児童又は青少年の健全な育成に係る福祉支援事業）



地域子育て支援センター（旭川認定こども園）



研修の様子



元気な子どもたち（和歌山認定こども園）



富山認定こども園と放課後児童クラブ「とやまキッズ」

「一人ひとりの子どもを大切に、保護者や地域社会から信頼され、選ばれる保育所を目指す」という教育・保育理念のもと、各地域の保育ニーズに合わせて、全国 24 箇所の認可保育所及び認定こども園を運営しています。

各保育所・認定こども園においては、子どもたちの「遊びを通しての学び」を大切にするとともに「延長保育」「障害児保育」「病児・病後児保育」など利用者のニーズに沿った教育・保育を提供しています。障害児保育については、総合福祉センター「弘済学園」のノウハウも、日々の保育に役立てています。

また、「地域子育て支援拠点事業」「一時預かり事業」「育児相談」などにより、地域の子育て家庭への支援を行うほか、「放課後児童クラブ事業」により、就学後も地域において子どもが安心して過ごせる場を提供しています。さらに、階層別、職種別研修の実施、全国 24 箇所での交流保育、海外研修への参加等を通じ、保育の質の向上に取り組んでいます。



社会福祉法人 東京弘済園 (高齢者に係る福祉支援事業)



特別養護老人ホーム「弘済園」



ケアハウス「弘陽園」



芝生広場で花見を満喫



園児とのふれあい



春の「東京弘済園通り」

1955年12月、本法人は老人福祉事業を行うため、東京都三鷹市に社会福祉法人 東京弘済園を設立しました。東京弘済園では、特別養護老人ホーム「弘済園」、養護老人ホーム「弘寿園」、ケアハウス「弘陽園」の3つの入所施設を運営しています。また、デイサービスセンター「弘済ケアセンター」「三鷹市高齢者センターけやき苑」でそれぞれ通所施設、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを運営しています。さらに、保育所を併設し、高齢者と児童の複合施設として、世代間交流を行うなどの特色を活かした活動を積極的に行っています。

本法人では、東京弘済園への支援を通して高齢者の生活と福祉の充実を図っています。

主催行事

「東京弘済園まつり」

地域の力・施設の力をテーマに、地域の皆さまとの交流を深めることを目的に毎年開催しています。地域でいきいきと暮らすための福祉セミナーのほか、施設紹介、併設の弘済保育所によるゲームコーナーなども実施しています。



「東京弘済園まつり」

所在地 東京都三鷹市下連雀5-2-5 電話 0422-43-3319

ホームページアドレス <https://www.kosaien.or.jp>



『社会福祉研究』（社会福祉に関する知識・技術の向上に係る福祉支援事業）

知の側面から社会福祉の発展に貢献することをねらい、1967年に創刊された専門誌『社会福祉研究』を、現在も年3回発行しています。創刊時の思いを引き継ぎ、「社会福祉の実践と研究をつなぐ」をコンセプトに、社会福祉に関する論文などを掲載しています。



「社会福祉セミナー」（社会福祉に関する知識・技術の向上に係る福祉支援事業）

1965年以降、社会福祉分野で懸案となっている施策や現場実践の課題をテーマに、「社会福祉セミナー」を年1回開催しています。参加者とともに考えるセミナーとして、行政機関職員・社会福祉事業従事者・研究者・学生など多くの方にご参加いただいています。



福祉資料室（社会福祉に関する知識・技術の向上に係る福祉支援事業）

福祉資料室は、社会福祉専門図書館として1965年に開設しました。社会福祉に関する文献を13,000冊以上所蔵し、社会福祉事業の従事者・研究者だけでなく、一般の方々にも無料で閲覧・貸出を行っています。

蔵書検索はこちら

<https://www.lib-finder.net/kosaikai/>



朗読録音奉仕者感謝行事（障害者に係る福祉支援事業）



全国に27万人といわれる視覚障害者にとって録音図書（書籍を読み上げて録音したもの）は重要な情報源ですが、そのほとんどはボランティアによって製作されています。

視覚障害者の教育環境の向上に尽力される奉仕者の功績に対して感謝の意を表するために、鉄道弘済会と社会福祉法人 日本盲人福祉委員会は、1957年に点訳奉仕者の顕彰行事を共催で開始しました。視覚障害者用録音図書の需要増加や関係者からの要請などもあり、1971年からは顕彰対象者を朗読録音奉仕者に移行し、録音図書の質的向上と奉仕活動の啓発を目的として、今日まで行事を実施してきました。

録音図書は、中途失明者はもとより、点字図書の読める視覚障害者などにとっても欠くことのできない知識、教養の源です。録音図書に関わる奉仕活動は、地道でかつ奉仕者の並々ならぬ努力と愛情を必要とするものであり、今後も多くの力が求められます。

こうした録音図書製作に携わる方々の活動が、さらに充実・発展することを願い、奉仕者に感謝の念を捧げるため、本行事を実施しています。

他団体への運営協力（障害者に係る福祉支援事業）

社会福祉法人 鉄道身障者福祉協会、社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合、社会福祉法人 日本点字図書館等の社会福祉団体への助成を行っています。

奨学金事業（その他事業）

鉄道弘済会は、修学意欲のある学生を応援しています。

奨学金事業は、1937年から実施している長い歴史のある事業です。現在、「福祉人材養成のための奨学金事業」及び「児童養護施設の卒園者等の自立支援のための奨学金事業」を実施し、福祉を学びたいという意欲のある学生に奨学金の貸付（無利子）を行っています。なお、本法人もしくは社会福祉法人 東京弘済園に就職し、業務に従事する期間は返済を免除します。

収益事業 ～公益事業の一層の発展のために～

不動産賃貸・開発事業

首都圏を中心に全国で、オフィスビル、一般・学生向けマンション、商業ビル、医療ビルなどの建物をはじめ、土地や駐車場を含めた全82件の不動産を賃貸、管理運営しています。今年度は新たにオフィスビル「麹町弘済ビルディング」が竣工しました。

今後も公益事業を支える重要な柱として、積極的に新規開発に取り組んでいきます。

主な保有物件

オフィスビル

麹町弘済ビルディング（千代田区）
西新宿KSビル（新宿区）
鎌倉河岸ビル（千代田区）
新秋葉原ビル（千代田区）



麹町弘済ビルディング
(2025年6月竣工)

一般マンション

シティカレント大手町（千代田区）
シティカレント代官山（渋谷区）
シティカレント南青山（港区）
シティカレント天王寺アリー（大阪市）



シティカレント天王寺アリー
(2025年3月竣工)

学生マンション

プラントワール札幌（札幌市）
ソレイユ千駄木（文京区）
プラントワール富士見台（練馬区）
プラントワール茨木（茨木市）



プラントワール富士見台
(2025年3月竣工)

商業ビル

仙台小田原KSビル（仙台市）
柏増尾台KSビル（柏市）
POKKE（台東区）
エールエールA館（広島市）



POKKE

ホテル

JRイン札幌北2条（札幌市）
ヴィアイン新大阪ウエスト（大阪市）
JRクレメントイン姫路（姫路市）
クインテッサホテル小倉（北九州市）



JR イン札幌北2条

その他

河北透析クリニック（杉並区）【医療】
KS池袋（豊島区）【高齢者住宅】
品川KSビル（品川区）【障害者支援】
土地賃貸（横浜市鶴見区）【保育園用地】



河北透析クリニック

一あゆみ一

1931年～1933年 満州事変
1938年 社会事業法施行
1939年～1945年 第2次世界大戦
1946年 生活保護法施行
1948年 児童福祉法施行
1949年 日本国有鉄道発足
1950年 身体障害者福祉法施行

1932 昭和7年
1936 昭和11年
1943 昭和18年
1944 昭和19年
1949 昭和24年
1950 昭和25年
1951 昭和26年
1952 昭和27年

- 2 本部事務所を鉄道省内に設置①
- 4 東京支部を万世橋駅構内に設置②
- 4 売店事業を開始(東京駅・上野駅)
- 8 初の授産場を名古屋市内に開設③
- 4 学生寮を中野区に開設
- 8 本部を下谷区上野元黒門町に移転④
- 11 東京義肢製作所を下谷区下谷御徒町に設置⑤
- 5 福祉事業の対象を一般に拡大
- 11 初の旅行者援護相談所を大阪駅に開設⑥
- 4 初の保育所を和歌山市に開設⑦
- 6 福祉所26箇所を設置



本部設置時の鉄道省庁舎



東京支部(万世橋駅)



名古屋授産場



上野の本部



東京義肢製作所



昭和20年頃の売店



大阪駅旅行者援護相談所



和歌山保育所

1983年 老人保健法施行
1987年 国鉄分割民営化第1回「鉄道の日」
1994年 阪神・淡路大震災
1995年 介護保険法制定
1997年 介護保険法制定
2000年 介護保険法施行
2006年 社会福祉法制定
2006年 障害者自立支援法施行
2011年 東日本大震災
2013年 障害者総合支援法施行

1982 昭和57年
1987 昭和62年
1994 平成6年
1995 平成7年
1998 平成10年
1999 平成11年
2004 平成16年
2006 平成18年
2008 平成20年
2011 平成23年
2012 平成24年
2013 平成25年

- 2 厚生大臣表彰
- 7 キヨスク事業を6分社化
- 10 運輸大臣表彰
- 3 学生寮を練馬区に開設⑬
- 3 賃貸住宅事業を開始(KS千駄木)
- 4 弘済学園に自閉症児施設を開設⑭
- 3 初の駅型保育所を戸田駅前に開設⑮
- 3 キヨスク事業を完全分離
- 5 荒川区南千住に移転(義肢装具サポートセンターに改称)⑯
- 2 弘済事業(株)の清算終了(関係関連会社整理完了)
- 4 都内初の保育所を南千住駅前に開設
- 12 義肢装具サポートセンターに天皇皇后両陛下による行幸啓を賜る
- 10 公益財団法人へ移行



富士見台学生寮



弘済学園第二児童寮



戸田駅前保育所



義肢装具サポートセンター

1953年
NHKテレビ本放送

1960年
精神薄弱者福祉法施行

1963年
老人福祉法施行

1964年
東海道新幹線開業
第18回夏季オリンピック・
パラリンピック東京大会
母子福祉法施行

1969年
米国の人工衛星
有人月面着陸

1953 昭和28年	1955 昭和30年	1957 昭和32年	1963 昭和38年	1965 昭和40年	1969 昭和44年	1972 昭和47年	1981 昭和56年
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

2
児童養護施設「札幌南藻園」を
札幌市に開設⑧

6
知的障害児・者施設
「日向弘済学園」を
千葉県山武郡日向村
に開設⑨



札幌南藻園

12
社会福祉法人
「東京弘済園」を設立

3
第1回「点訳奉仕
感謝の集い」を開催⑩



日向弘済学園



第1回「点訳奉仕感謝の集い」

10
弘済学園
アフターケアセンターを
品川区に開設

3
弘済会館（本部）を
千代田区麹町に建設⑪

3
弘済会館に福祉資料室開設

5
弘済会館に福祉相談室開設

11
社会福祉研修講座を開催
（第1回社会福祉セミナー）



弘済会館（本部）

5
東京身体障害者福祉センター
を新宿区に開設

10
「日向弘済学園」を神奈川県秦野市に移転
（総合福祉センター「弘済学園」に改称）⑫



総合福祉センター「弘済学園」

12
内閣総理大臣表彰（国際障害者年）

2015年
子ども・子育て支援
新制度開始

2017年
JR発足30周年

2018年
社会福祉法改正

2019年
幼児教育・保育の
無償化開始

2020年
新型コロナウイルス
感染症流行

2021年
第32回夏季オリンピック・
パラリンピック東京大会

2014 平成26年	2015 平成27年	2016 平成28年	2017 平成29年	2018 平成30年	2019 平成31年	2020 令和2年	2021 令和3年	2023 令和5年	2025 令和7年
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	--------------	--------------	--------------

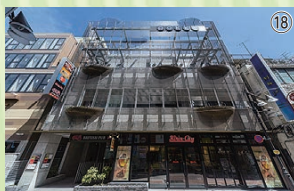
6
港区南青山に新築物件
「シティカレント南青山」が竣工⑬



シティカレント南青山

9
福祉相談室を廃止

4
弘済学園地域生活支援センター「わくわく」
児童発達支援センター「すきっぷ」を開設



POKKE

4
認定こども園へ移行開始

4
札幌南藻園分園型小規模グループケア
「ひまわり」を開設⑬

4
台東区上野に商業ビル「POKKE」が竣工⑭



弘済学園デイクアセンター

10
新聞雑誌等の取次事業を廃止

3
順次閉所を進めてきた福祉所をすべて廃止

4
富山認定こども園に
放課後児童クラブ
「とやまキッズ」を開設⑮



富山認定こども園
放課後児童クラブ
「とやまキッズ」

4
地域小規模児童養護施設
「あじさい」「すずらん」を開設



札幌南藻園本園舎

7
本部を文京区小石川へ移転

4
札幌南藻園児童家庭支援センター
「なんそうえん子ども家庭支援センター」を開設⑯



麹町弘済ビルディング

6
千代田区麹町にオフィスビル
「麹町弘済ビルディング」が竣工⑯

SNS

公益財団法人 鉄道弘済会
公式HP
<https://www.kousaikai.or.jp/>



発行2025年6月